

【ねがいましては】

令和3年5月25日

KYOWA SCHOOL

第366号

「2色のうれしさ」

中学校生活、順位という過酷な世界が待ち受けています。1位がいて、ビリがいる。前回20位だったのが、今回はどういふわけか100位。それを見て驚愕するのは『親の常』かもしれません。そこでちょっと待ってください。そうなったのには何か理由があるはずです。常に俯瞰的に冷静にお子さんを眺める目を持っていただきたいと思うのです。

何が原因だったのか、ここ1~2ヶ月の間に何が起こっていたのかです。私の思うところは、ほぼ過半数が精神的な変化です。学校で何かがあったのかかもしれません。またはご家庭で何かがあったのかかもしれません。また、自身何かに目覚めたのかかもしれません。

単調に繰り返される毎日の中で、ふと時間を止め立ち止まり、自身を眺めたとき「いったい何なのだ・・・。」と、考え込んでしまったのかかもしれません。それとも何か不安なことが起こり、それが日々こころを脅かし、集中を妨げているのかかもしれません。

まず最初の一言が、「何かあったんだい？」ではないでしょうか。まず、お子さんの心根に寄り添うこと・・・。

どんな状態であっても、理解者がそばにいてくれることの力強さは嬉しいものだと思います。(それが親の努め?)

私は学びに数的評価を伴わせることには真正面から反対です。歴史上「あたりまえ」で行われてきたテストは、小学校時代は個人へのものが色濃くなっていますが、それでも返却時に点数が記載されていますので、簡単に周辺の子たちには知れ渡ります。やがて中学以降では、順位というシビアなものが現れます。

小学校入学、100点は目立ちますし、子どもたちの「ロコミ」はかなりの速度をもっています。やがて時間の経過とともに、頭のよい子、悪い子の色分けが出来上がっていきます。そして中学、いよいよ順位のスタートです。過酷な競争の中に放り込まれます。発表された順位に、点数に、真っ先にムキになって反応するのが「親」になります。そこで発生するのが「感情爆発」です。好きでそうなったわけではないはずですが、「何やってるんだー」とばかりに感情が吹き出てきます。同時に、「このままでは・・・。」という不安が全身をおおいます。「このままではまともな大人になれないかもしれない。」「このままではまともな就職ができないかもしれない。」悲観的観測が駆け巡ります。「何とかして成績を上げなければ。」というあせりが打ち寄せます。「短時間で成績を上げねばならぬ・・・。」・・・この方程式に、子も同調します。「楽に成績を上げるには・・・。」

そこに矛盾が現れます。勉強と学びはかけ離れた存在になるということです。成績は勉強、「ひと」の成長に必要なものは学び・・・。私はそう考えています。つまり、学校での勉強(成績)は、本来「ひと」の成長とはかけ離れたものであるということになってしまいます。学校→強制、そんなつもりはないと、学校関係者の方々は異口同音を並べられるのですが、「勉強って、そこまで歯を食いしばってやられるものなのですか。」ということです。本来の学びはそうではなかったはず。国語の教科書を読んで感動を覚えたり、難易度の高い算数・数学の問題を解いたときのうれしさを味わったり。「学びっていいな」って、感じ取ることが重要なはず。です。

ひょっとしたら、先のお子さんの順位降下は、それに気づき、やられる勉強に違和感を覚え、本来の学びを考えるようになったのかかもしれません。

黒板に書かれたことをひとつ漏らさず書き写して提出しなさい。問題集の〇〇ページまでやって提出しなさい。〇〇しなさい・・・。だらけの学校生活に何かを感じたのかかもしれません。

明らかに、順位が落ちるといふことは傍目には「失敗」なのかもしれませんが、心理的に正常な成長をしているお子さんであれば、そのようなことがあってもおかしくはないと思います。

失敗という語彙は当該者が決めることであり、他人がとやかく口を挟むものではないのかかもしれません。

それどころか、「おまえも大人に近づいたかな。」と、気遣ってあげる方が良いのかかもしれません。

私は一貫して話題にしないことがあります。「成績」です。あまりにも小さく見えてしまうのです。成績が上がったからしあわせになった。立派な人になれた。それよりも自らの成績が上がったことで、誰かが下がることになります。だったら、そうやって他人を苦しめるようなことはしたくない。だから成績には全くの無頓着・・・。

家族揃って無頓着バンザイ!

学びには楽しさがつきものです。学ぶことは楽しさがつきものです。現代の、いや以前からもそうだったのでしょ。他人を蹴落として「うれしー!」と、感じながら成長してきた人の多いこと。それが本当の嬉しさだと確信している人の多いこと。

もし、もしです。本当に自分の成績が他人を傷つけると感じ、テストを白紙で提出する子がいたとしたら・・・。

それが我が子だとしたら、どうお感じになりますか。

私なら、「よくやった、それでいいぞ。それでいい。これからもそれで生きなさい。」

真の学びを感じ取りましょう。ここに通うあなた方はそれを味わうことができるのです。